

安全重点施策

鉄道保安総合委員会において、安全の具体的目標である「安全重点施策」を各部署で定めています。

平成21年度安全重点施策		
鉄道企画部(企画担当)	安全管理体制の確立	①事故の防止対策など安全性の向上を図るため、各部門へのアンケート、ヒヤリング、調査を実施し、輸送の安全確保に必要な要因を検討分析し、安全に関する設備投資計画、予算計画を立案する。さらに、前年度の投資案件に対し、その効果を検証する。
鉄道企画部(保安担当)	安全管理体制の確立	①安全マネジメント監査において、従来の「適合性」チェックに加え、「有効性」チェックの視点からも監査を行う。 ②複数部門の関与する業務において、部門間で成されている取り決めの確認を行い、その運用状況をチェックする。 ③各部門の監査を通じて、ヒヤリハット活動の啓発を図るとともに、ヒヤリハット情報を有効活用する。 ④経営管理部門を含めた安全マネジメント教育を充実させる。
鉄道事業部(運転担当)	安全管理体制の確立	①安全に関する教育訓練を実施する。 ②運転保安に関するヒヤリハット情報を周知するとともに、原因分析を行い、対策などへ活用する。 ③教育・指導の機会を中心に、乗務員を含め、全ての職種間でのコミュニケーションを継続的に図る。 ④車庫構内において、ATS設置などにより、「事故の芽を摘み取る。」
	線路・施設変更への対応	①淀駅付近下り線高架化に伴う線路・施設の変更以降も、安全、適法かつ適正な列車運行を継続する。
鉄道事業部(工務担当)	安全管理体制の確立	①安全に関する教育を確実に実施するとともに、その報告についても確実にを行う。 ②安全に関する教育訓練について教育効果を確認する。 ③教育・指導の機会を伝達を確実に行う。
	安全関連投資の実施 または線路・施設変更への対応	①駅耐震補強工事(京橋駅、枚方市駅、丹波橋駅、守口市駅操車庫他) ②地下駅防火防煙シャッター設置工事(淀屋橋駅、天溝橋駅) ③道床改良工事(大阪地下線、西三荘駅、樟葉駅付近) ④タイプレート交換工事(急曲線部)
鉄道事業部(電気担当)	安全管理体制の確立	①安全に関する教育訓練を確実に実施するとともに、教育効果を確認する。 ②安全に関する情報の伝達を確実に行う。 ③ヒヤリハット報告をさらに充実させるとともに現場係員へのフィードバックを行う。
	安全関連投資の実施	①踏切支障報知装置新設工事 ②支持物補強建替工事(コンクリート柱) ③変電所機器更新工事(蒲生変電所、淀変電所) ④運動装置更新工事(寝屋川車庫) ⑤列車接近表示器新設工事 ⑥ホーム異常通報装置新設工事 ⑦車掌列車監視用ITVカラー化工事
鉄道事業部(車両担当)	安全管理体制の確立	①運転保安に関する「事故の芽情報」についてヒヤリハットを集約し、事故の未然防止を図る。 ②過去の重大事故の教訓を継承する。
	安全関連投資の実施 または線路・施設変更への対応	①運転状況記録装置新設 ②列車防護無線の新設 ③8000系車両改修工事 ④新型ATSの検討
大津鉄道事業部	安全管理体制の確立	①安全管理規程および運輸安全マネジメントを含めた教育訓練を確実に実施し、習熟状況を把握する。 ②課題・継続検討に対して、すみやかに対応する。 ③他社事故事例を鑑みて、自部門の安全診断を実施する(10件以上) ④ヒヤリハット報告を充実させる。
	安全関連投資の実施 または線路・施設変更への対応	①運転状況記録装置の設置 ②ホームセンサーによる保安度向上
お客さまサービス事業部	安全管理体制の確立	①安全教育の徹底により、線路内および接近作業時における触車事故を防止する。 ②操車業務における基本的取り扱いを徹底する。 ③ヒヤリハット報告を充実し、対策を実現化する。

※平成22年7月に組織変更があったため、安全重点施策に記載の部署名(体制)と、P.17の安全管理体制が一致していません

平成22年6月までの部署名	平成22年7月以降の部署名
鉄道企画部(企画担当)	鉄道企画部
鉄道企画部(保安担当)	安全推進部
鉄道事業部(運転担当)	鉄道営業部(運転担当)
鉄道事業部(工務担当)	工務部
鉄道事業部(電気担当)	電気部
鉄道事業部(車両担当)	車両部
大津鉄道事業部	大津鉄道部
お客さまサービス事業部	鉄道営業部(駅担当)

平成21年度実績	安全管理体制の確立	平成22年度安全重点施策
①鉄道事業の安全性維持と効率性向上との両立を目指し、「ゼロベース」思考での業務改善プロジェクトをスタートさせ、平成21年度は鉄道事業部(車両担当)で実施。必要性と優先度を検討し設備投資計画を策定。 電車線一括電化、車両更新、自動張力調整化について投資効果の検証を行った。	安全管理体制の確立	①事故の防止対策等安全性の向上を図るため、各部門へのアンケート、ヒヤリング、調査を実施し、輸送の安全確保に必要な要因を検討分析し、安全に関する設備投資計画、予算計画を立案する。さらに、前年度の投資案件に対し、その効果を検証する。 ②「ゼロベース」思考での業務改善プロジェクトを鉄道事業部、お客さまサービス事業部の各担当へ展開する。実地調査やヒヤリング等により、作業内容、必要なスキル、課題等の可視化、分析を行い、改善につなげる。
①各部門ともアンケート等を実施して、安全マネジメント教育などの有効性を確認していることが分かった。今後は、過去の事故対策について効果の検証に目を向けたい。 ②監査を通じて認識もれの事項を確認し、是正を要請した。 監査のフォローアップを通じて確認していく。 ③今まで提出がなかった部署からも提出を受け、本活動の重要性が浸透し始め、ヒヤリハット会議も機能してきた様子である。今後も啓発活動を継続することとしたい。 ④安全大会の開催は経営管理部門への教育として不可欠であり、継続して実施して行きたい。	安全管理体制の確立	①監査を通して事故対策の検証を行う。 ②ヒヤリハットの啓発活動を継続する。 ③安全大会を継続して開催するとともに安全意識調査の結果を分析し各部門の安全マネジメント教育の充実を図る提案を行う。
①運輸安全マネジメントの教育を実施。また異常事態を想定した訓練を実施した。 ②改善を実施 ③助役および乗務員からアンケートをとるなど積極的に意見を聞くとともに、同業他社の乗務員とも交流を図った。 ④寝屋川車庫、淀車庫においてATSを新設。	安全管理体制の確立	①安全に関する教育訓練を実施する。 ②運転保安に関するヒヤリハット情報を周知するとともに、原因分析を行い、対策等へ活用する。 ③教育・指導の機会を中心に、乗務員を含め、すべての職種間でのコミュニケーションを継続的に図る。
①設備、運転取り扱いのチェックを実施。また助役・乗務員の見学会も実施した。	運転設備および 取扱い基準の改善	①効果を見極めつつ設備の改善を進めるとともに、運転取扱いに関するマニュアルなどを精査のうえ簡素化も含めて対応し、保安度向上を図る。
①計画通り教育を実施。 ②アンケートなどにより効果確認を実施。 ③各種会議体で周知した。	安全管理体制の確立	①安全に関する教育訓練の実施および報告を確実に行うとともに、その効果の確認を行う。 ②他社および他部門の事故について、自部門に照らし合わせて自己診断を行う。(年間10件以上) ③ヒヤリハット報告を充実させるとともに現場係員へのフィードバックを行う。
①工事完了。 ②設置完了。 ③道床不良箇所(大阪地下線、西三荘駅、樟葉駅)で改良を実施。 ④劣化の激しかった急曲線部(磯島、上島、跨線橋下手)で交換を実施。	安全関連投資の実施	①駅耐震補強工事(深草駅、京都列車区耐震診断他) ②地下駅防火防煙シャッター設置工事(三条駅) ③道床改良工事(土居駅下手、藤森駅下手、深草駅2番線) ④分岐器改良(樟葉駅、寝屋川車庫(弾性ポイント化))
①安全管理規程・他社の事故例・作業ミスおよびヒヤリハット等についての教育訓練を実施。また教育効果確認のため面接を実施。 ②各種会議体で周知した。 十分な時間が確保できず、また伝達が一方的になってしまったため見直しが必要。 ③各種会議体で周知した。改善事例も2件あった。フィードバックは、やや不十分な面があった。	安全管理体制の確立	①安全に関する情報の伝達について、より確実な仕組みを構築し実施するとともに、教育訓練の機会などで係員の知覚度合いを確認する。 ②ヒヤリハット情報の係員へのフィードバックを、より充実化させ実施する。
①枚方公園、御殿山、放生川、墨染、観月橋の5踏切道に新設 ②中書島駅〜東福寺駅(5本)、宮之阪駅〜村野駅(8本)工事完了。 ③蒲生変電所、淀変電所の機器更新 ④平成23年1月下旬竣工予定。 ⑤河内森駅、穴地蔵駅に新設 ⑥伏見桃山駅、清水五条駅、神宮丸太町駅に新設 ⑦淀屋橋駅、丹波橋駅の機器取替。西三荘駅、大和田駅、中書島駅のカメラ移設。	安全関連投資の実施	①踏切支障報知装置新設工事 ②支持物補強建替工事 ③変電所建替等工事(蒲生変電所、淀変電所) ④運動装置更新工事(寝屋川車庫) ⑤ホーム異常通報装置新設工事 ⑥信号機LED化工事 ⑦新型ATSシステム構築工事(詳細設計)
①対策を実施するとともに、一覧表を作成して情報共有に努めた。 ②鉄道事故調査報告書(国土交通省・運輸安全委員会)をもとに勉強会を実施。 ・規程類や保安装置が過去の重大事故の教訓から成立していることを認識させた。 ・運輸安全マネジメント勉強会を実施。	安全管理体制の確立	①運転保安に関する「事故の芽情報」についてヒヤリハットを集約し、事故の未然防止を図る。 ②過去の重大事故の教訓を継承する。
①28編成(54両)に新設。進捗状況150両/201両 ②29編成(60両)に新設。進捗状況70両/201両 ③8000系車両1編成の改修を実施	安全関連投資の実施 または線路・施設変更への対応	①運転状況記録装置新設 ②列車防護無線の新設 ③8000系車両改修工事 ④新型ATS装置の検討
①年間計画を策定し教育訓練を実施。また、知覚度確認も行った。 ②社内保安監査での指摘事項について改善措置を実施。 ③10件の安全診断を実施。 ④30件のヒヤリハット報告があった。さらに報告件数を増やしたい。	安全管理体制の確立	①運輸係員が主体的に安全意識を高揚できるための取り組みを行う。(運輸課) ②扉事故防止のための取り組みを行う。(運輸課) ③施設点検の基準などを見直すとともに、確実に点検を実施する。(技術課) ④ヒヤリハット報告啓蒙期間を設けて報告件数を増やす。
①8両に設置完了。600形、700形の設置状況18両/30両。平成22年度は10両に設置予定。 ②2両に設置準備工事完了。平成22年度は10両に設置予定。	安全関連投資の実施 または線路・施設変更への対応	①運転状況記録装置の設置 ②扉閉扱い防止装置の設置
①教育を定期的に行っていたが、飲料自販機業者の台車が列車に接触する事故が発生した。 ②教育を実施したが、枚方市駅でインシデントが発生させてしまった。 ③ヒヤリハット提出の主旨を周知するとともに、提出しやすい環境づくりに努めた結果、報告件数が増加した。	安全管理体制の確立	①安全教育の徹底により、線路内および接近作業時における触車事故を防止する。 ②操車業務における基本的取り扱いを徹底する。 ③ヒヤリハット報告を充実し、対策を実現化する。

安全投資

安全関連設備投資として、平成21年度は約72億円を投資し、淀駅付近の立体交差化、ホーム点字ブロック内方線の整備、新型ATS導入に向けた調査、踏切・信号の更新などを実施しました。平成22年度は投資額約89億円(1億円未満切り捨て)で、淀駅付近の立体交差化、耐震補強、列車防護無線装置の新設(京阪線)などを実施する予定です。

